

2020 年度 事業計画書

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

情報科学の国際研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を行うとともに、将来を担う若手研究者の育成を図るため、情報技術に関する競技会を開催する。

助成事業

2020 年度研究者交流助成として以下のとおり事業を行う。

海外で開催される国際研究集会への派遣(研究者海外派遣助成)及び国際研究集会参加又は調査・共同研究目的での外国人研究者の来日(外国人研究者交流助成)について渡航費及び滞在費の一部を助成する。

助成金総額: 1,000,000 円

原則として、派遣地域別又は出発地域別に下表のとおりとする。

派遣地域又は出発地域	助成金
韓国、台湾、香港	7 万円
中国、東南アジア、ハワイ	12 万円
北米、中米、オーストラリア	14 万円
ヨーロッパ	16 万円
その他	個別に決定

助成件数: 6～7 名程度

応募資格(研究者海外派遣助成):

- ①大学等学術研究機関又はこれと同等と認められる機関に所属する研究者であること。
(大学院生も可)
- ②原則として、渡航目的が海外で開催される情報科学に関する国際研究集会において、研究発表又は招待講演を行うためであること。
- ③所属機関の長又は当財団の役員、評議員の推薦があること。
- ④過去 2 年間に同一目的で当財団より助成を受けていないこと。

応募資格(外国人研究者交流助成):

- ①海外における大学等学術研究機関又はこれと同等と認められる機関に所属する外国人研究者であること。(大学院生も可)
- ②来日目的が次のいずれかに該当すること。
 - a. 日本で開催される情報科学に関する国際研究集会において、研究発表又は招待講演を行う。
 - b. 日本の学術研究機関において、情報科学に関する調査研究又は共同研究を行う。

③次のいずれかの推薦があること。

a.国際研究集会の組織委員長又は論文委員長等の推薦

b.受入れ機関又は部署の長、若しくは当財団の役員、評議員の推薦

④過去2年間に外国人研究者本人が当財団より助成を受けていない。

募集方法：当財団ホームページ上に募集要項及び申請用紙を掲載して公募する。

募集締切：2020年6月末日

(募集対象渡航期間：2020年8月1日～2021年3月末日)

申請方法：所定の申請用紙に必要事項を記入し、当財団に提出する。

(外国人研究者については受入れ責任者が申請者となることも可。)

選考方法：研究交流助成選考委員会において選考し、理事長が決定する。

なお、当該選考委員は理事会で選任する。

採否通知：締切日の翌月末までに、申請者及び推薦者に採否を通知する。

交 付：助成金は派遣又は来日時期を勘案して交付する。

使 途：助成金は、助成金交付規程に従い申請書記載どおりに使用する。万一途中で変更がある場合には、予め申し出て当財団の承認を求めること。渡航が中止になった場合は、ただちに返却すること。

成果報告：帰国後1ヵ月以内に報告書を当財団に提出するものとする。

成果刊行：成果について刊行する場合には、“公益財団法人 情報科学国際交流財団 (International Information Science Foundation) の助成による”旨を明記する。

2. 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の研究課題の提言を発信することを目的とした調査・分析等を行う産学の研究者グループに対する助成を行う。

ただし、事業の実施については2018年度以降休止している。

競技会開催事業

大学対抗国際プログラミングコンテストを開催するとともに、その関連事業を行うものとする。

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、アジア地区の大学生、大学院生及び高等専門学校生を対象とした大学対抗国際プログラミングコンテスト(ICPC)を開催し、コンピュータプログラミング技術の向上と国際性を養う。

競技会開催費総額：16,250,000円

実施運営方法：理事会でICPC運営委員を選任し、開催実施校はICPC運営委員が選定し、理事長が決定する。ICPC運営委員が実行委員長・審判長を選任し、実行委員長は大会実行委員会・審判団・ICPCセクレタリーズを組織し、事業計画に基づき実施運営を行う。ICPC国際ルールの他に、大会ローカルルールは実行委員会、選抜ルールはICPC運営委員会で定める。

成果報告：報告書を作成し、関係各署に送付する。

実施内容：

(1) 学生のコンピュータプログラム技術の向上を目的にACM(国際計算機学会)が1997年以

来世界的規模で開催し、現在 ICPC Foundation(本部 Baylor University, U.S.A.)が運営を行っている国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)のアジア地区予選の一つとして ICPC2020 横浜大会を慶應義塾大学と共同で開催する。

実行委員長・高田眞吾教授(慶應義塾大学)、審判長・前原貴憲氏(理化学研究所)及びセクレタリーズチェア・山口利恵特任准教授(東京大学)を実施運営の中心とする。

- ①全国の大学及び高等専門学校の情報関係学科に参加募集ポスター等を送付し、インターネットにより参加登録を受け付ける。
 - ②インターネットを利用した国内予選を行い、本選に進出するチーム(選手3名コーチ1名)は選抜ルールに則り選抜する。
 - ③本選は国内予選の選抜チームにアジア諸国からの参加チームを加え、前年の65チームから5チーム増やした計70チームで行う予定とする。実施については、2020年11月7～9日の3日間の日程で横浜産貿ホール(神奈川県横浜市)、ワークピア横浜(同)等に於いて行う。初日は開会式・リハーサル等、2日目はコンテスト・表彰式・閉会式・懇親会等、3日目は企業見学を行う予定とする。
 - ④原則として、前年のICPC2019横浜大会に準じて行うものとする。
- (2)過去のICPC参加経験者等による技術向上を目的とした予備練習会等の開催を補助する。
 - (3)当該コンテストの国内予選で優秀な成績を収めたチームを2020年12月19～20日にハノイ(ベトナム)で開催予定の東南アジア地区セミファイナル大会へ派遣する。セミファイナル大会で2021年開催の世界大会出場者が選出される。
 - (4)ICPC2019横浜大会において優秀な成績を収め、決勝進出の権利を得た4チーム(東京大学・会津大学・筑波大学・京都大学)の選手・コーチを2020年6月21～26日にモスクワ(ロシア)で開催予定の世界大会へ派遣する。また、同大会で開催される指導者会議に学生の育成及び大会運営に携わる教員を派遣する。

以上